市民に開かれた議会を目指して

旭市議会議長
向後悦世

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお喜び申し上げるとともに、日ごろより市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は昨年の12月議会におきまして、議員各位のご推挙により第14代議長に就任致したところでございます。誠に身に余る光栄と責任の重さを痛感し、旭市の発展に専心努力致す所存でございます。

当市議会では平成29年12月の改選から、議員の定数が22人から2人減の20人となりましたが、定数が削減となりましても、広く市民の皆さまの声を聴き、効率の良い議会運営に努めてまいる所存です。

さて世界の経済情勢をみると、米中両国間の貿易摩擦による、世界経済の先行き不透明感が高まっております。

一方、国内では企業の収益や雇用、所得環境が改善し、景気は緩やかながらも回復基調が続いているものの、中小企業や地方まで十分波及されていない状況であります。

そのような中、旭市の地域資源である診療圏人口１００万人を誇る国保旭中央病院や、県下一盛んな農業、畜産業をはじめ、水産業、商業、工業、豊かな自然環境を活用した観光産業にさらに磨きをかけ、生かしていくことが大事だと考えております。

また平成27年10月に開業した道の駅季楽里あさひでは、開業から3年を経過し来場者が３００万人を超え、連日にぎわいを見せております。売り上げも順調に伸び、観光や文化の情報発信と交流の拠点として、今後も大変期待しているところです。

全国的に人口減少、高齢化社会が問題になっていますが、旭市でもそれらに対応していく必要があります。

現在「まち・ひと・しごと創生法」を踏まえ、人口減少の克服と地域の活性化のために、市の基本的な目標や方向性と具体的な取り組みなどをまとめた旭市総合戦略が策定されています。今後は人口減少、高齢化社会に対応する時代を見据えた、社会基盤の構築を図る必要があります。市民が安心して暮らし、働き、子どもを生み育てることができるまちづくり、若者がこのまちの魅力を感じて住みたい、住み続けたいと思うような住環境や雇用、教育環境の整備など、人口減少に歯止めをかけるための取り組みが求められています。市議会としましても、限られた予算の中で何をすべきか、何ができるのか、市執行部と共に考え、地域の創生に向けた数々の施策の状況を検証し、市民の皆さまが旭市に住む喜びを感じることができるまちづくりを目指して、さらなる努力を重ねてまいります。

新たな年を迎え、今後もますます地方分権が推進され、地方の活性化が求められていきます。市議会としましても「市民に開かれた議会」を目指し、市議会の活性化と改革に取り組み、旭市の発展のために誠心誠意尽くしてまいる所存でございます。

結びに、本年が皆さまにとりましてより実りある飛躍の年となりますよう、心からお祈り申し上げまして、新年のあいさつと致します。

年頭所感

市民から信頼されるまちづくりを目指して

旭市長
明智忠直

明けましておめでとうございます。

今年は天皇陛下の退位が予定されており、平成最後の正月になります。希望と懐古、感謝と期待、さまざまな思いが交錯してきます。思い起こせば本市にとって、天皇陛下に東日本大震災でのお見舞いの行幸啓をいただいたことは、復興を目指す被災者、市民、関係者の大きな励みとなりました。そして被災地の最初にご訪問いただいた事実を、これからも市民一人一人が、語り継いでいかなければと思うところであります。

昨年は大きな自然災害が日本列島を襲った年でありました。6月には大阪北部地震、7月には西日本豪雨、8月から9月にかけて関西地方に襲来した二度の台風、9月には北海道胆振地方のマグニチュード7の大震災、そのほか災害級といわれる猛暑にも見舞われ、多くの犠牲者が出てしまいました。東日本大震災で16人の尊い命を失ってしまった旭市としましては、被災地の悲しみ、苦しみはいかばかりかと思いを巡らせながら、安全安心対策は行政としての最優先の課題であると、再確認をしたところであります。

昨年を振り返ってみますと、まず津波避難場所としての日の出山公園の竣工、二本の津波避難道路の整備、ソフト面では訓練や記憶をとどめるための資料館の充実、学校教育での学びなどを行ったところであります。そのほか重要課題であります地方創生と人口減少対策、小中学校の再編を含む公共施設の統廃合問題、道路などの整備、新庁舎建設、生涯活躍のまちづくりなど、確実に進捗しているところであります。特に人口減少対策では、妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て支援策を講じているところであり、国が幼児教育の無償化を打ち出したことも、本市の子育て支援の充実につながるものと期待しているところであります。そのほか国から地方への官公庁の移転や大学の増員などにつきましては、地方の活性化のために具体的に進めてほしいと思っております。

本年は現行の総合戦略最後の年でもあり、新たな元号に変わる節目の年として、しっかり事業を進めていかなければならないと、決意しているところであります。特に農業産出額が567億円と全国6位、千葉県1位の農業、全国有数の規模を誇る国保旭中央病院、年間100万人を超す来客がある道の駅季楽里あさひなど、旭の宝であるこれらを生かした「生涯活躍のまち」は、市民皆さまの協力をいただき、ぜひ成功させたいと思っております。

また海岸を有する本市は、観光面でも非常に高いポテンシャルを持っています。日本ロマンチスト協会から恋する灯台として認定を頂きました飯岡灯台や、展望館を含む公園、サーフィンのメッカ九十九里海岸、釣り船、海水浴等々、これらの自然を生かした観光産業も、これからさらにピーアールしていかなければならない市の魅力であります。

地方の生き残りが大変な厳しさを増してくる中、我が旭市は東総の中核都市として、市民や周辺自治体からも信頼されるまちづくりを目指し、今年の干支にちなんで、猪突猛進で頑張っていきたいと思います。